

# 東北大生 東北勢減

河北新報社提供

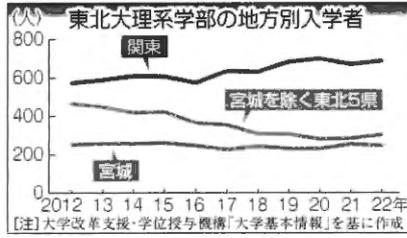
## 10年で2割減 関東勢2割増、逆転

東北大に入学する東北の学生が減り続けている。この10年で2割減り、代わりに関東勢が2割強増え、立場は逆転した。大学進学者そのものが首都圏で増え、地方で減っているのが一因とみられる。(コンテンツセンター・佐藤理史) 26面に関連記事

### 進学者の減少一因か

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構がウェブで公開する大学基本情報によると、2022年度の東北大の「出身高校の所在地別入学者数」は東北893人に

対し、関東903人。10年前の12年度は東北1103人、関東735人だった。東北と関東の差は年々縮まり、19年度以降、逆転した。東北の落ち込みが大きいのは理系(工、理、農、薬、医、歯)で、22年度は12年度と比べて23%減った。文系(文、教育、法、経済)は同11%減だった。



東北大青葉山キャンパス。理系学部では東北の入学者の減少が著しい



減り幅は特に秋田(59%)山形(42%)岩手(36%)の3県が大きい。この10年で1375人(6%)減った。宮城は9097人で、610人(7%)増えた。関東は2万2775人(13%)増え、19万8337人となった。

大学進学者数の差が広がっているのが要因の一つと考えられる。文部科学省の学校基本調査によると、22年度の大学進学者は東北5県で2万2189人(22年度)。

東北大への東北の入学者が減少し続ける背景には、地方の進学校の凋落もあるようだ。東北大高度教養教育・学位授与機構の倉元直樹教授(教育心理学)によると、東北大の東北出身者の合格率は2007年度の45.6%をピークに、20年度の33.7%まで減っている。ここ2年は新型コロナウイルス禍に伴う地元志向の高まりからか、やや持ち直しているが、15年前から減少傾向が続いてきたという。

中部出身者が8割を超える名古屋大を筆頭に、東京大、京都大、大阪大も圏域出身者が6〜7割を占める。東北大は元々、高くなかった地元比率が輪をかけて下がっている。

倉元教授は「東北出身者はAO入試で5割超ながら、一般入試は3割ほど。AO入試を拡充してきたため、減少幅をどめられてきたとも言える」と明かす。「優秀な生徒が他大学に流出しているならまだいい

が、難関大に届く生徒を育てて切れないのが実態だ」と指摘する。

## 東北大 倉元教授「未履修問題で学校の指導負担増」背景に地方進学校の凋落

が、難関大に届く生徒を育てて切れないのが実態だ」と指摘する。

倉元教授は06年に発覚した必修科目未履修問題「IIがきっかけ」とみる。教育現場は問題以前からカリキュラムが飽和しており、学習指導要領の緩やかな運用で何とか対応してきたが、問題後は厳格に守らなければならなくなった。

「都市部と違って民間の教育リソースが乏しい地方では、学校が全てを担わなければならない。一方で少子化が進み、学校規模が縮小し、教員不足は深刻化している。かつての進学校にも今は幅広い水準の生徒が

集まるようになり、学校の指導負担が増している」と現状を分析する。

受け入れ側としても危機感を抱く。「優れた学力を持って志望する生徒なら出身地を問わないのは当然」と前置きした上で「高校野球で地元校を応援するように、東北大に特別な思いを持ってほしい。その基盤が弱くなるのは望ましくない」と話す。

対策の一環として、東北大は昨年6、7月、宮城を除く東北各県で進学説明会を開催した。例年3月に宮城で行ってきた取り組みを初めて広げた。進路指導教諭を集め、入試の考え方について膝詰めで意見を擦り合わせたという。

倉元教授は「学校単独で頑張るのではなく、県単位でチームを作り、限られたリソースの配分をどう工夫できるかが問われている。効果はこれからの山形など即応してくれた県もある」と語る。

# 受験意識と通塾率高く

## 東北大生 首都圏勢が増

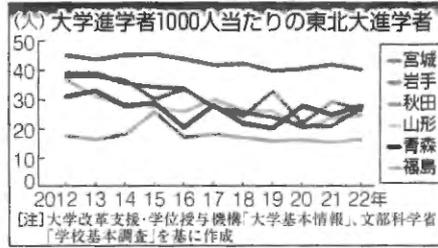
東北出身の入学生が減り続ける東北大。難関大を目指す生徒を後押しする地元の学習塾関係者はどう見るか。

(1面に関連記事)

河合塾仙台校(仙台市)の渡辺真吉校長は「首都圏勢は早い段階から受験への意識が高く、通塾率も高い。東北の学生が押し入れ気味な印象は確かにある」と語る。

東北大は進学説明会やオンラインでのオープンキャンパスを開催するなど、首都圏での広報活動に力を入れている。渡辺校長は「東大、京大に並ぶ『指定国立大』とし

て、優秀な学生を全国から集めたいという考えが背景にあるのだろう」とみる。2次試験の配点比率が共通



テストの2倍程度となつてい  
る点も、受験生の「流入」を  
強める要因の一つとなつてい  
るといふ。「共通テストが不  
本意な成績で、2次試験で逆  
転を目指す受験生に選ばれ  
る」と渡辺校長。「実際は  
ともかく、他の難関大と比べ  
て理科など一部の試験はくみ  
しやすいと考える首都圏の受  
験生も一定数いるようだ」  
岩手県内を中心に進学塾を  
展開する「M進」の佐々木優  
教育事業部統括本部長は「東  
北大だけではなく、北海道大  
や九州大といった旧帝大も同  
じ傾向かもしれない」と推測  
する。

## 学習塾関係者 高難度AO入試に対応

首都圏の教育行政の方針転  
換を理由に挙げ「東京都教委  
が進学指導重点校を選ぶ基  
準として難関国立大に合格  
できる得点水準を求めている  
ように、国立大志向が高まっ  
ている。早稲田、慶応といっ  
た私立文系から、旧帝大へ人  
気が移りつつある」と解説す  
る。

東北大はAO入試に熱心で  
定員の3割を集めているが、  
「近頃は一般入試よりも高い  
学力が問われるほど難易度が  
上がっている」と指摘。「首  
都圏の学生がしっかり対策し  
ている分、東北の学生は受か  
りにくくなっている。青森県  
は青森高、八戸高、弘前高と  
3校が踏みとどまっている  
が、岩手県は盛岡一高の1強  
に次ぐ高校がなく苦しい」と  
語る。



東北大の2次試験会場に向かう受験生。2023年2月25日、仙台市青森区の東北大川内北キャンパス